EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER

10098311

PUBLICATION DATE

14-04-98

APPLICATION DATE

20-09-96

APPLICATION NUMBER

08249867

APPLICANT: FUJITSU GENERAL LTD;

INVENTOR:

SUZUKI KUNITOSHI;

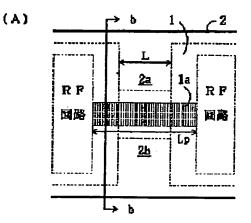
INT.CL.

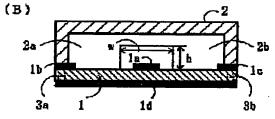
H01P 3/08 H01P 1/00 H01P 1/04

H03F 3/60

TITLE

MICROWAVE EQUIPMENT





ABSTRACT :

PROBLEM TO BE SOLVED: To reduce interferences by unwanted frequency components in LNB (low noise frequency converter) used for receiving the signal of satellite broadcasting, satellite communication or the like.

SOLUTION: Wall parts (projecting parts 2a, 2b, etc.) formed by partially thickening the inner part of a shield case 2 are provided near a signal line pattern (50 Ω pattern) 1a on the surface of a substrate 1, and a structural part which is similar to a waveguide formed near the 50Ω pattern 1a is provided with a width (w) and a height (h) and is made partially narrow. The waveguide is a kind of an HPF(high-pass filter) and improves a cut-off frequency at the time of reducing the width (w) and the height (h). Thereby a pass band as the waveguide is narrowed as a result and unwanted components are prevented from passing through. In addition, the width L of the projecting parts 2a and 2b is longer than at least one wavelength of a signal desired to be cut off.

COPYRIGHT: (C)1998, JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-98311

(43)公開日 平成10年(1998) 4月14日

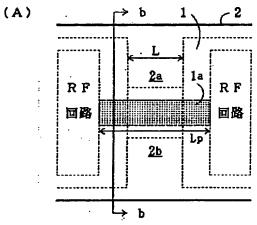
(51) Int.Cl.6 H 0 1 P H 0 3 F	3/08 1/00 1/04 3/60	識別記号		H 0 1 P 3/08 1/00 1/04		Z	
·			審査請求	未請求	請求項の数 5	OL (全 4 頁)	
(21)出願番号		特顏平8-249867	867 (71)出顧人 000006811 株式会社富士通ゼネラノ			·	
(22)出廟日		平成8年(1996)9月20日	(72)発明者	神奈川県川崎市高津区末長1116番地 鈴木 邦俊 川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士 通ゼネラル内			
					·		
:							

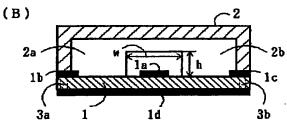
(54) 【発明の名称】 マイクロ波装置

(57)【要約】

【課題】 衛星放送又は衛星通信等の信号受信に使用するLNB (低雑音周波数変換器) において、不要周波数成分による妨害を低減する。

【解決手段】 基板1の表面上の信号線路パターン(50 Ωパターン)1a付近に、シールドケース2の内部を部分的に厚くして形成した壁部(凸部2a、2b等)を設け、同50Ωパターン1a付近に形成される導波管的構造部分を幅w、高さhとし、部分的に狭くする。導波管は一種のHPF (ハイパスフィルタ)であり、上記幅w又は高さhを小さくすると遮断周波数が高くなる。これにより、導波管としての通過帯域を狭めることになり、不要成分の通過を阻止する。尚、凸部2a、2bの幅しは少なくとも遮断したい信号の1波長より長くする。





10

30

【特許請求の範囲】

【請求項1】 表面に、受信信号周波数を所要周波数に 周波数変換するための髙周波回路やミキサ回路等を形成 する信号線路パターン及び接地パターンが設けられ、裏 面に接地導体を設けてなるマイクロストリップライン基 板の表面周縁の接地パターンに、下部が開口されてなる 箱状のシールドケースの開口辺が接するように取り付け られてなるものにおいて、前記シールドケースの一部 に、横方向に横切るように所要厚さの壁部を設け、該壁 部の略中央下部に所要の高さと所要の幅とからなる開口 空間部を設けたことを特徴とするマイクロ波装置。

【請求項2】 前記壁部を、前記ミキサ回路より前の信 号線路パターン上について設けてなることを特徴とする 請求項1記載のマイクロ波装置。

【請求項3】 前記壁部を、複数箇所の信号線路パター ン上について設けたことを特徴とする請求項1又は請求 項2記載のマイクロ波装置。

【請求項4】 前記壁部が前記基板表面と接する部分に 接地パターンを設け、同接地パターンをスルーホールを 介し前記接地導体に接続したことを特徴とする請求項1 記載のマイクロ波装置。

【請求項5】 前記開口空間部の幅と髙さとを、所望の 遮断周波数になるように設定したことを特徴とする請求 項1記載のマイクロ波装置。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明はマイクロ波装置に係 り、より詳細には、衛星放送又は衛星通信等の信号受信 に使用するLNB(低雑音周波数変換器)において、不 要周波数成分による回路への妨害の低減に関する。

【従来の技術】衛星信号受信用のLNBはアンテナ (パ ラボラ等)に取り付けられ、同アンテナで受信したマイ クロ波信号の周波数 (例えば、12GHz帯) を所要の中間 周波数帯 (例えば、1GHz帯) の信号に変換するもので ある。図2(A)はこのLNBの周波数変換処理機能に つき、その主な機能プロックを処理の流れに従って図示 したものであり、同LNBのマイクロストリップライン 基板の回路パターン側(表面)から見て表した図であ る。同図(A)において、21はシールドケースであり、 下部を開口した箱状のものである。22はマイクロストリ ップライン基板であり、周波数変換するための髙周波回 路やミキサ回路等を形成する信号線路パターンや接地パ ターン、及び回路素子のある側を表面とし、その裏面に は一面に接地導体を設けたものである。なお、この接地 導体は、図示してないが、別に設けるシールドケース (上部を開口した箱状のもの) の内部底面に面接触す る。

【0003】シールドケース21は、同ケースの開口辺が

うに取り付ける。また、接地パターンはスルーホールに より基板裏面の接地導体に接続されている。RF入力 (例えば、12GHz帯) が所要中間周波数 (例えば、1G Hz帯) に変換されるまでには、図示のような種々のプロ セスを経る。即ち、RF入力をピックアップするプロー ブ23、主にパターンの長さ及び幅等でインピーダンス整 合をとる整合部24、信号増幅するアンプ回路25、前配同 様にしてインピーダンス整合をとる整合部26、不要成分 を除去するトラップ回路27、結合回路28、前記同様の整 合部29、信号増幅するアンプ回路30、前記同様の整合部 31、RFフィルタ32、周波数変換するミキサ回路33、L PF34、及び信号増幅し、中間周波信号(IF)を出力す るアンプ回路35等である。

【0004】上記一連の回路部分はシールドケースによ りシールドされ、不要輻射や他よりの妨害等を防止して いる。この一連の回路部分 (23~35) は回路素子と、同 回路案子相互を接続する基板上の信号線路パターン(銅 泊) とで構成され、各接続の際の入出力インピーダンス は通常、50(Ω)にしている。そこで、以下、基板22の 20 信号線路パターンを「50Ωパターン22a」と記すことと する。いま、図2(A)のa-aを断面として前記信号 線路パターンをシールドケース21との関係で描くと図2 (B) のようになる。同図(B) において、図2(A) と同一のものは同一符号を付してあり、21a及び21bは シールドケース21の開口辺を表し、22 a は基板22表面上 の前記50Ωパターン、22b及び22cは接地パターン、22 dは基板22裏面の接地導体である。接地パターン22b、 22 c と接地導体22 d とはスルーホール31 a 、31 b で接続 されている。50Ωパターン22 a は図示のように、シール ドケース21の開口辺21 a 、21 b で囲まれた内部にあり、 これにより一種の矩形導波管的構造になっている。この 矩形導波管的構造が、従来のLNBにおいては後述のよ うにLNBの特性を劣化させる要因になる場合がある。 [0005]

【発明が解決しようとする課題】前述の受信用LNBに おいては、本来の受信信号波の他、種々の不要信号成分 が入力される。例えば、送受信を兼ねた衛星通信用アン テナが挙げられるが、このアンテナの場合、送信用LN Bと受信用LNBとが近接して設けられる。そのため、 数ワット出力の送信用LNBよりの送信信号成分が受信 用LNBに混入してしまう場合がある。本例の他、受信 用LNBにおいては種々の不要信号成分が入力される可 能性がある。受信用LNBは一般に、小レベル信号(一 70 dBm程度) を増幅し、所要周波数の中間周波信号に変 換するものであり、その動作帯域が一般に広い。そのた め、大電力の不要な成分が入力されるとRFアンプ部が 飽和し、非線型の状態となって基本波の他、種々の高調 波成分が発生する。

【0006】また、この不要な高調波成分が信号線路パ 前記基板22の表面周縁に設けた接地パターンに接するよ 50 ターン (50Ωパターン) を伝送せずに、前述の導波管部 分を伝送してしまうことがある。この場合、髙調波成分 等によりLNBの総合利得やNF (雑音指数) 等の特性 が劣化する。上記高調波成分が信号線路パターンのみを 伝送するものであれば同信号線路パターン上にトラップ 回路を挿入する方法が有効となるが、導波管部分を伝送 してしまうものについては意味をなさない。従って、導 波管部分を伝送する成分を極力減らす方策が求められ る。これにより、前記総合利得やNF(雑音指数)等の LNB特性の劣化を防止できる。本発明はこのような背 景からなされたものであり、受信用LNBに不要成分の 信号が入力した場合に、同LNB内部の導波管的構造部 分を伝送する成分を低減するようにしたマイクロ波装置 を提供することを目的とする。

[0007]

【課題を解決するための手段】本発明は、表面に、受信 信号周波数を所要周波数に周波数変換するための髙周波 回路やミキサ回路等を形成する信号線路パターン及び接 地パターンが設けられ、裏面に接地導体を設けてなるマ イクロストリップライン基板の表面周縁の接地パターン に、下部が開口されてなる箱状のシールドケースの開口 辺が接するように取り付けられてなるものにおいて、前 記シールドケースの一部に、横方向に横切るように所要 厚さの壁部を設け、該壁部の略中央下部に所要の高さと 所要の幅とからなる開口空間部を設けたマイクロ波装置 を提供するものである。

[0008]

【発明の実施の形態】前記手段のように、基板表面上の 信号線路パターン(50Ωパターン)付近に、シールドケ ース内部を部分的に厚くして形成した壁部を設け、同50 Ωパターン付近に形成される導波管的構造部分を狭くす る。この場合、50Ωパターンの両側であって前記竪部と 接する基板面に接地パターンを設け、スルーホールを介 し裏面の接地導体へ接続してもよい。導波管は一種のH PF (ハイパスフィルタ) であり、また、矩形導波管の 場合、その幅又は高さを小さくすると遮断周波数が高く なる。従って、上記の壁部を設けて矩形導波管的構造を 部分的に狭くすることにより、前配の幅及び高さを小さ くでき、導波管としての遮断周波数が高くなる。この結 果、HPFとしての通過帯域を狭めることになり、不要 成分の通過を阻止することができる。

[0009]

【実施例】以下、図面に基づいて本発明によるマイクロ 波装置を説明する。図1は本発明によるマイクロ波装置 (具体的にはLNB) の要部構成図であって、(A) は 図2(A)の一部信号線路パターン部分についての要部 上面図であり、(B)は同(A)図のbを断面とした場 合の要部側面図である。図1において、1はマイクロス トリップライン基板であり、その表面には50Ωパターン 1a、所要の接地パターン1b、1c及び回路索子 (図示せ ず) 等が設けられ、裏面には一面に接地導体1dが設けら 50 れたものである。また、2はシールドケースであり、図 2のシールドケース21に対応するものである。なお、L NBの構成、「50Ωパターン」等の用語についての説明 は図2と共通のため省略する。

【0010】本発明の骨子は、シールドケース2により 形成される矩形導波管的構造を部分的に狭くすることに ある。具体的には、シールドケース2の一部に、横方向 に横切るように所要厚さの壁部を設け、該壁部の略中央 下部に所要の髙さhと所要の幅wとからなる開口空間部 を設ける。上記壁部をシールドケース上部から見た場 合、図1(A)の2a、2bのような凸部を形成したものと なる。この凸部の幅しは、少なくとも遮断したい信号の 1波長より長くする。このしが長い程減衰量が多くな る。なお、上記凸部2a、2bの底面については基板1と接 する.

【0011】また、(A)図のbを断面として横から見 た場合には同図(B)のように、基板1からシールドケ ース2の天面までの高さが他の箇所より低いh、幅につ いても他の箇所より狭いwとなる。図1 (A) の凸部2 a、2bの底面と接する基板部分には、図示 (B図) はし ていないが接地パターンを設け、同パターンをスルーホ ールを介し基板裏面の接地導体1dに接続するようにして もよい。なお、シールドケース2の開口辺については図 2 (B) と同様に接地パターン1b、1cと接し、スルーホ ール3a、3bを介し接地導体1dに接続されている。以上の ようにすることにより、50Ωパターン1aの近辺に形成さ れる矩形導波管部分はその高さをh、幅をwとしたもの

【0012】矩形導波管の場合、髙さh、幅wと遮断周 波数fcとの関係を近似式で表すと以下のようになる(数 1)。

【数1】

【0013】但し、C1、C2はマイクロ波のモードで定ま る定数である。上式から、高さh又は幅wを小さくする ほどその遮断周波数が高くなる。また、導波管は一種の HPF (ハイパスフィルタ) である。従って、遮断周波 数を高くすることはHPF低域側での不要成分の排除能 40 力を向上する。従って、所望の遮断周波数特性となるよ うに高さh及び幅wを定める。これにより、従来、導波 管部分を伝送していたHPF低域側成分が本発明により 阻止されることとなり、不要成分による影響を低減する ことができる。また、上述の壁部はミキサ回路33以前の 50Ωパターン1aについて設けることが望ましい。 ミキサ 回路33は非線型な回路であるのでミキサ回路より前で排 除しないと髙調波が多数発生し、対応が困難となるから である。また、上述の壁部を複数箇所の50Ωパターン1a について設けることにより、不要成分の排除能力を向上 できる。

-3-

[0014]

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、衛星信号受信用のLNB等のマイクロ波装置において、同LNB内部に形成される矩形導波管的構造を部分的に狭くするように、同LNBのシールドケースの内部形態を従来のものに対し変えているので、前配矩形導波管的構造部分の遮断周波数を高くすることができる。これにより、従来、上記導波管部分を伝送していた不要成分が阻止されることとなり、LNBとしての総合利得、又はNF(雑音指数)等の特性劣化を防止できる。特に、本発明は、送受信兼用の衛星通信アンテナのように、送信用LNBと受信用LNBとが近接して設けられるような場合に、送信用LNBから受信用LNBに混入した成分による同受信用LNB側の特性劣化の防止に有効である。【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるマイクロ波装置の要部構成図であって、(A)は従来技術説明用の図2(A)の一部信号線路パターン部分についての要部上面図であり、(B)

は同(A)図のbを断面とした要部側面図である。

【図2】従来のマイクロ波装置の説明用の図であり、

(A) は要部上面構成図、(B) は同(A) 図の a を断面とした要部側面図である。

【符号の説明】

1 マイクロストリップ基板

1a 50Ωパターン

1b、1c 接地パターン

1d 接地導体

10 2 シールドケース

2a、2b 凸部

3a、3b スルーホール

21 シールドケース

22 マイクロストリップ基板

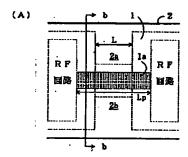
22a 50Ωパターン

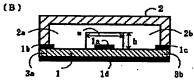
22b 、22c 接地パターン

22d 接地導体

31a、31b スルーホール

【図1】





【図2】

